

# ディスクグラインダ取扱説明書

## G400H-S/G400H

### 目次

○エアツールを 安全に使用していただくための警告・注意	1~8
○エアグラインダを 安全に使用していただくための警告・注意	18~21
○ワイヤブラシ使用時の警告・注意	22~23
○ディスクペーパー使用時の警告・注意	24~26
○外観図／仕様／標準附属品	36~37
○オイルカバーの取付け方法／トイシの取付け方法	38
○ディスクペーパーの取付け方法	39
○スロットル操作方法／タッチジョイント取付け方法	40
○デットハンドル取付け方法／サイレンサ仕様の排気方向	41
○点検とその処置	42~43



- このたびはヨコタ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
- ご使用の前に必ず本書をよくお読みにになり、内容を十分にご理解の上、正しくご使用ください。
- この取扱説明書は必ず保管してください。

# INSTRUCTION MANUAL FOR DISC GRINDER

## G400H-S/G400H

### CONTENTS

○Warnings and cautions for safe use of pneumatic tools	9~17
○Warnings and cautions for safe use of pneumatic grinders	27~30
○Warnings and cautions for use of wire brush	31~32
○Warnings and cautions for use of disc paper	33~35
○External view, specification, and standard accessories	36~37
○How to install the wheel cover/How to install the grindstone	38
○How to install the disc paper	39
○How to operate the throttle/How to install the touch joint	40
○How to install the dead handle/Specification of silencer	41
○Check and countermeasures	44~45



- Thank you very much for purchasing this YOKOTA product.
- Please be sure to thoroughly read this Instruction Manual and fully understand the instructions before use.
- Please be sure to retain this Instruction Manual at hand.

## エアツールを安全に使用していただくための警告・注意

**⚠ 警告**：下記項目内容を十分理解の上、本書をお読みください。

■安全上の注意事項は、次の見出しを掲げております。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

**⚠ 警告**…誤った取扱をしたときに、使用者が死亡または重症を負う可能性が想定される場合。

**⚠ 注意**…誤った取扱をしたときに、使用者が障害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される場合。

※「**⚠ 注意**」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。

■本書はご使用される方が、いつでも利用できる場所に大切に保管し、繰り返しお読みください。

■本書および製品に貼付けされている警告ラベルを紛失または汚損された場合は、弊社もしくはご購入の販売店を通じ、速やかにお取寄せの上、正しく保管または貼付けしてください。

■当製品を譲渡もしくは貸出される場合は、本書を必ず添付してください。

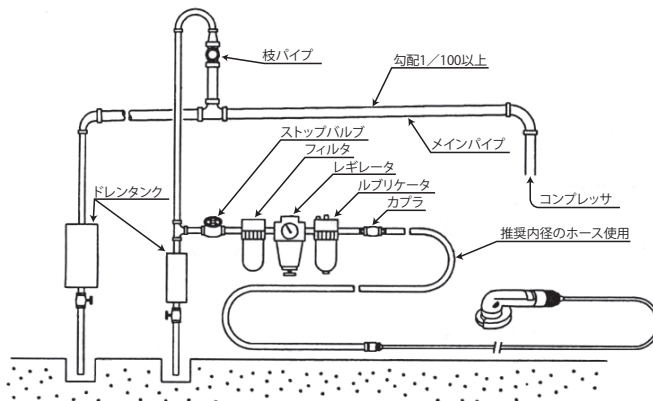
お買い上げの製品または本書の内容について、ご質問がおありの場合は弊社もしくはお買い上げの販売店までお問い合わせください。

**⚠ 警告** ■ご使用前に必ず本書をよくお読みになり、内容を十分にご理解の上、正しくご使用ください。

**⚠ 注意** ■エアツールを使用する前に準備頂くもの

●適正な配管設備をご準備ください。

配管略図



配管は清浄で乾燥した圧縮空気を送るよう実施しなければなりませんので、いかにコンプレッサーを合理的に設置しても配管に注意を怠りますと圧力降下、ドレンなどの悪影響により、出力の低下、および工具の早期破損を生ずる原因となりますので十分にご注意ください。

圧力はコンプレッサーの近くと遠くとでは必然的に差ができるものですが、特に空気の流れの速い場合はかなりの値に達することがあります。これは一般に途中損失、またはパイピングロスといわれるもので空気流とパイプ、またはホースの内壁との摩擦による損失や外部への洩れなどが原因です。

その圧力降下は管が大きくなれば減り、管の長さには損失は比例するもので、上記配管略図のようにレシーバーから各々のパイプを経て、フィルタ、レギュレータ、ルブリケータによってドレン、および塵埃などの除去、適正圧力の確保、自動給油を行い、種々の悪影響を防ぎます。

**⚠ 注意 ●ドレンの除去**

午前午後の作業開始前にドレンタンク内のドレンの除去を行ってください。使用前にはエアホースの空吹きを行ってエアホース内のドレンを吹き出してから、エアホースを接続してください。

**⚠ 注意 ●適正な空気圧力で使用してください。**

指定空気圧力以上での使用は製品の破損・事故の原因となりますので、圧力計、減圧弁等を設置して、必ず適正な空気圧力（無負荷時の配管動圧）で使用してください。空気圧力の設定方法は、ツールから先端工具が取り外されている状態で、ツールを無負荷で作動させ、配管上のレギュレータで設定してください。  
※指定空気圧力はP 18 参照

**⚠ 注意 ●清浄で乾燥した圧縮空気を供給してください。**

塵埃、ドレン等は故障および事故の原因となりますので、清浄で乾燥した圧縮空気を供給するようにしてください。エアドライヤ、エアフィルタ等の設置をおすすめします。

**⚠ 警告 ●適正なエアホースを使用してください。**

エアホースは耐油性で外面が耐摩耗性を有し、規定内径で作業空気圧力に適合したものを使用してください。また、老朽化したものや極端に長いもの（推奨長さ：5m以内）は使用しないでください。

**⚠ 警告 ●適切な周辺機器・アクセサリをご使用ください。**

先端工具・ソケット・ビット・ドリル・砥石・チゼル・ニードル等、動力工具に適合したものをご使用ください。また安全で正しい使用方法に関して不明点や疑問のある場合は、本機を使用する前にメーカーまたは販売店に必ずご相談ください。

## **⚠ 警告** ■ 作業環境について

- **作業場は十分に明るくし、いつもきれいに保ってください。**  
暗い作業場や散らかった作業場は事故の恐れがあります。照明等に留意し、整理整頓を心がけてください。
- **爆発の危険のあるところでは使用しないでください。**  
エアツールは引火や爆発の恐れがある場所では、危険ですので絶対に使用しないでください。
- **高所作業には十分注意してください。**  
エアツールの落下による事故を防止するため、高所での作業時は安全ワイヤの使用等の落下防止策を講じてください。また足場の安全性を十分確認し、転落事故に注意してください。
- **関係者以外は近づけないでください。**  
作業場所には作業関係者以外は近づけないでください。特に子供は危険です。
- **騒音に注意してください。**  
騒音に関しては法令および各都道府県の条例で定める規制があります。周囲に迷惑をかけないように規制値以下で使用されることが必要です。必要に応じ遮音壁等を設けてください。  
騒音が作業者の位置にて85dB（A）を越える場合は、必ず耳栓を使用してください。また85dB（A）以下の場合についても、耳栓を使用されることをおすすめします。

## **⚠ 警告** ■ 作業保護具について

- **作業保護具を使用してください。**  
人体保護のため、作業に応じヘルメット、保護めがね、耳栓、防塵マスク、安全靴等の作業保護具を使用してください。
- **適した服装で作業してください。**  
ダブダブの服やネックレス等の装身具は着用せず、作業に適した服装で作業してください。また、長い髪の毛がエアツールにかからないように、帽子等で覆ってください。

## **⚠ 警告** ■ エアツール使用時の基本的な注意事項について

- **作業は十分注意して行ってください。**  
軽率な行動や非常識な行動および疲れている場合の使用等はけがや事故の原因となりますので、油断しないで、十分注意して作業を行ってください。
- **指定された用途以外に使用しないでください。**  
指定用途以外への使用は事故の原因となりますので、絶対に行わないでください。
- **無理な使用は行わないでください。**  
過負荷での無理な使用は、エアツールの破損や故障の原因となりますので、能力以内で使用するようになしてください。
- **エアツールの取扱は丁寧に行ってください。**  
乱暴な取扱は事故や故障の原因となりますので、エアツールを投げたり落としたりして、衝撃を与えないようにしてください。
- **エアホースの取扱は丁寧に行ってください。**  
エアホースをエアツールの支えや、上げ下げに使用しないでください。エアホースの破損は事故の原因となります。
- **使用した工具類は、必ず取外してください。**  
エア源とつなぐ前に、アクセサリ固定に用いたスパナや、能力調整に用いた六角レンチ等の工具類が取り外して有る事を確認してください。
- **エアコンプレッサ以外の動力源を使用しないでください。**  
エアツールはエアコンプレッサによる圧縮空気を動力源とする工具です。圧縮空気以外の高圧ガス（酸素・アセチレンガス・プロパンガス等）を使用すると爆発の危険があります。

●**エアホース取付け具は確実に取付けてください。**

取付け不備によりエアホースがはずれた場合、エアの噴射によりエアホースが飛び回り、非常に危険ですので、エアホース取付け具はエアホースおよびエアツールに確実に取付けてください。

●**エアホースの接続時はゴミ等の混入に注意してください。**

エアホースを本機に接続する際は、必ずゴミやドレンがなくなるまでエアブローを行ってください。またエアホース接続部のゴミ等は必ず取除いてから接続してください。

●**作業対象物をしっかりと固定してください。**

作業対象物の固定が不十分な場合、作業対象物が飛んでけがをする恐れがありますので、確実に固定して作業を行ってください。

●**可動部に手や布きれ等を近づけないでください。**

使用中は非常に危険ですので、可動部に手や布きれ等を絶対に近づけないでください。

●**電気に対し接触させないでください。**

エアツールは電気との接触に対し絶縁されていませんので、電気に対し接触させないように注意して使用してください。

●**不意な始動を避けてください。**

エアホースを接続する場合は、始動スイッチが停止位置になっているかを確認してください。またエアツールを持ち運びする場合は、始動スイッチに手をかけないでください。

●**排気方向には十分に注意してください。**

エアツール作動時にはオイルミストが発生いたします。またコンプレッサーや配管内の異物等も排出される場合がございますので、排気が直接目や耳にあたらないように、排気方向に注意して使用してください。



●**無理な姿勢での作業は危険です。**

エアツールを確実に保持し、突発的な動きにも対応できるようにして、安定した作業姿勢で作業を行ってください。

●**適切に休憩をおとりください。**

長時間の連続作業は疾病等の原因となりますので、適当に休憩をおとりください。また痛み等、身体に異常を感じた場合は、直ちに使用を中止し、医師の診断を受け、その指示に従ってください。

●**改造は絶対にしないでください。**

改造を行っての使用は事故の原因になりますので、絶対に行わないでください。また、純正部品以外の部品を組み込むことも行わないでください。

●**部品を取外さないでください。**

取付けてある部品やねじ類を取外しての使用は、事故の原因になりますので、絶対に行わないでください。

●**エアツールに異常を感じた場合は直ちに使用を中止してください。**

使用中に異常を感じた場合は直ちに使用を中止して、点検・修理を依頼してください。

●**危険が予測される場合はエアの供給を止め、エアホースをエアツールからはずしてください。**

使用しない、または保守点検を行う場合や、先端工具・砥石・チゼル等の交換を行う場合、その他危険が予測される場合は、必ずエアの供給を止め、エアホースをエアツールからはずしてください。なお、自動的に圧縮空気を遮断する保護装置（カップリング等）を使用していない限り、エアホースを取外す場合は、まず元コックを締め、エアホースへの圧縮空気の供給を止め、次に本機のバルブを開き、エアホース内の残存空気を排出してから行ってください。

## **⚠ 警告 ■保守・点検・修理について**

### ●保管には十分な配慮を行ってください。

使用しない場合は、十分に手入れを行い、子供の手の届かない、乾燥した場所に保管してください。

### ●給油は大切です。

給油の効果として、エアモーター部、及びギヤ等の早期磨耗を防ぎ、錆びの発生を抑制します。給油を怠りますと、故障の原因となるばかりでなく、事故の恐れがありますので、エアモーター部に1日2～3回 TKa等油圧ユニット搭載モデルにはコスモロックドリル46を他のツールにはコスモタービン32（タービン油 ISO VG32）を数滴給気口より補給してください。自動滴下機能を有するルブリケータの設置をおすすめします。

※上記推奨オイルは弊社で取り扱いできます。

### ●使用前には必ず点検を行ってください。

使用前にはねじ部のゆるみや部品の損傷等がないか必ず点検してください。性能の低下や故障の原因となるばかりでなく、危険をとまなう恐れがあります。

### ●保守・点検を必ず実施してください。

安全に効率良く作業していただくために、保守・点検を怠らないでください。

### ●先端工具等、周辺機器の点検を必ず実施してください。

先端工具（ソケット・ビット・ドリル・砥石・チゼル・ニードル等）の周辺機器も安全に効率よく作業いただくために、保守・点検を実施してください。先端工具等と本体との接続部分も常に摩耗、破損等がないか点検し、必要なら交換もしくは修理を依頼してください。接続部分に遊び、ガタつきの大きいものは、破損して怪我をするおそれがありますので、絶対に使用しないでください。


### ●修理は弊社または弊社認定（指定）のサービス工場にご依頼ください。


修理は弊社または弊社認定（指定）のサービス工場に、お買い求めの販売店または代理店等を通じ、ご依頼ください。お客様の勝手な処置により、事故や不具合が生じた場合は責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。


## Warnings and cautions for safe use of pneumatic tools

 Please read this manual with a full understanding of following precautions.

■ In this Instruction Manual, safety precautions prefix either of the following safety alert pictograms. All are important items relating to safety and must be observed.

 **WARNING** ...Cases where mishandling induces a potentially hazardous situation which, if not avoided, could result in a death or serious personal injury.

 **CAUTION** ...Cases where mishandling induces a potentially hazardous situation which, if not avoided, may result in minor or moderate personal injury or property damage.

※Note: Even items described in “ CAUTION” may lead to serious consequences depending on circumstances.

■ Retain this Instruction Manual in a place where it is always available for anyone who needs to use it.

■ In cases where you lose this Instruction Manual or the warning label affixed to the product or make it dirty, immediately contact us or your YOKOTA representative to obtain the Manual or the warning label, and then properly retain the Manual or replace the warning label.

■ In cases where you transfer or rent this product, be sure to attach this Instruction Manual to it.

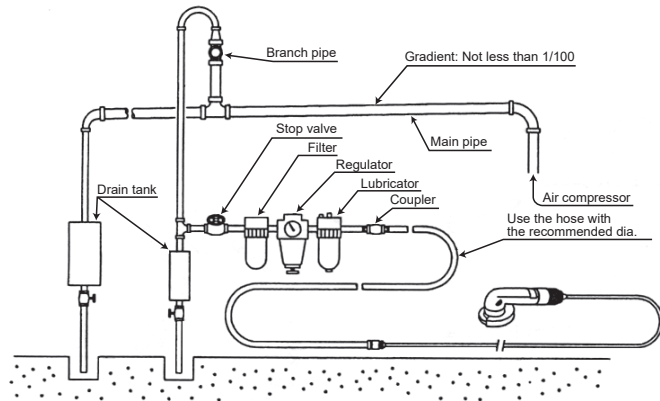
Should you have any questions about the product you purchased or this Instruction Manual, please contact us or your YOKOTA representative.

**⚠ WARNING** ■ Be sure to thoroughly read this Instruction Manual and fully understand the instructions before use.

## ■ Preparation before use of pneumatic tool







● Proper piping facility should be prepared.


### Schematic Piping Diagram



Piping must be installed so that clean and dry compressed air will be supplied. To install piping, note that even if the air compressor is reasonably installed, lack of proper care to the piping will result in a decrease in output and early damage to tools due to adverse influence such as pressure drop or drain. Air pressure inevitably varies with distances from the air compressor. However, the air pressure may significantly vary particularly in case of high-velocity airflow. This phenomenon is commonly referred to as mid-flow loss or piping loss which results from loss or leakage to outside due to friction between airflow and the pipe or the inner wall of the hose

The pressure drop decreases as the pipe size increases, and the loss is proportional to the pipe length. Consequently, as per schematic piping diagram above, compressed air passes through pipes via the receiver, and drainage and dust are eliminated, proper air pressure is secured, and automatic lubrication is conducted by the filter, regulator, and lubricator, respectively.

-  **CAUTION** ● **Elimination of drain**  
Before starting work in the morning and afternoon, eliminate drain from the drain tank. Before use, purge air through the air hose to eliminate drain from the air hose, and then connect the air hose to the pneumatic tool.
-  **CAUTION** ● **Use this pneumatic tool at proper air pressure.**  
Using the pneumatic tool at air pressure over the specified air pressure could result in damage to it or accidents. To avoid that, be sure to mount a pressure gauge and a reducing valve and use the pneumatic tool at proper air pressure (dynamic air pressure with the gauge of air piping at free speed). As the setting method of air pressure, adjust the regulator on the air piping, running the tool without any tip tool at free speed.  
※Refer to the page 21 on the specified air pressure.
-  **CAUTION** ● **Supply clean and dry compressed air.**  
Since dust or drain could result in malfunctions of the pneumatic tool or accidents, supply clean and dry compressed air to it. For that purpose, it is recommended to install an air drier, air filter, etc.
-  **WARNING** ● **Use proper air hose.**  
Use an oil-resistant air hose with abrasion-resistant external surface and suitable for operating air pressure for the specified inside diameter. In addition, do not use a deteriorated or excessively-long air hose (recommended length: 5 meters at maximum).
-  **WARNING** ● **Use the proper peripheral equipment and accessories**  
Use the proper tip tool such as socket, bit, drill, grinding wheel, chisel, needles etc., for the power tool.  
And when you are not sure about the usage of peripheral equipment and accessories (sockets, bits and couplers), please consult us or your dealer before using them.
-  **WARNING** ■ **Working environment:**  
● **Provide adequate lighting for the workplace and keep it clean at all times.**  
Dark or messy workplace could result in accidents. To avoid that, pay careful attention to lighting and make efforts to keep the workplace clean and tidy.

 **WARNING** ● **Do not use this pneumatic tool in places with an explosion hazard.**

NEVER use the pneumatic tool in places with explosion and fire hazards. Doing so could induce a hazardous situation.

● **Pay careful attention to the work in high places**

To prevent accidents resulting from the drop of the pneumatic tool, take drop preventive measures such as use of safety wire to work in high places using the pneumatic tool. Also be careful for the falling-off accident, by confirming surely the safety of scaffolding.

● **Keep anyone other than those involved away from the work site.**

Keep anyone, particularly children, other than those involved in the work away from the work site. Not doing so could induce a hazardous situation.

● **Pay careful attention to noise levels.**

There are restrictions on noise levels prescribed by the laws and regulations as well as prefectural ordinances. The pneumatic tool must be used at noise levels below those prescribed by them. Install sound insulation walls as appropriate. If noise levels at the operator's position exceed 85dB (A), be sure to use earplugs. Even if noise levels are not more than 85dB (A), it is recommended to use earplugs.

 **WARNING** ■ **Working protective equipment**

● **Wear personal protective equipment.**

To protect yourself, wear personal protective equipment such as a hard hat, safety glasses, earplugs, a dust mask, safety shoes, etc. depending on work.

● **Work in proper clothing.**

Work in clothing suitable for work. Prohibit the wearing of voluminous clothing or jewelry such as a necklace. Furthermore, persons with long hair must cover it with a hat to keep it away from the pneumatic tool.

 **WARNING** ■ **Basic precautions for use of this pneumatic tool:**

● **Pay careful attention to work.**

Hasty or thoughtless action or using the pneumatic tool when you are tired could result in injury or accidents. Use the pneumatic tool with your eye kept on and careful attention paid to it.

● **Do not use the pneumatic tool for any applications other than those specified.**

NEVER use the pneumatic tool for any applications other than those specified. Doing so could result in accidents.

● **Do not make unreasonable use.**

Use the pneumatic tool within its capacity. Unreasonable use of the pneumatic tool in overload could result in damage to or malfunctions in the pneumatic tool.

● **Handle the pneumatic tool with great care.**

Do not throw or drop the pneumatic tool to give it shocks. Rough handling of the pneumatic tool could result in accidents or malfunctions of it.

● **Handle the air hose with great care.**

Do not use the air hose to support or move upward or downward the pneumatic tool. Doing so could result in damage to the air hose, thus leading to accidents.

● **Remove the tools used, without fail.**

Before connecting to the air source, make sure that the tools such as the spanner used for installing the accessory, hex. wrench for adjusting the capacity, and so on are removed from the pneumatic tool.

● **Do not use any source of power other than air compressor.**

This pneumatic tool is a tool powered by compressed air from an air compressor. Using any high-pressure gas other than compressed air (e.g. oxygen, acetylene gas, or propane gas) could induce an explosion hazard.

● **Securely mount air hose attachments.**

Disconnection of the air hose could cause it to fly about due to air jet, thus inducing an imminently hazardous situation. To avoid that, securely mount the air hose attachment to the air hose and the pneumatic tool, respectively.

● **Be careful with dust contamination when connecting air hose.**

Please be sure to do air blow until dust and drain are gone when connecting air hose with a tool. Also, please be sure to remove dust on the connecting part of air hose.

● **Securely fix workpiece.**

If workpiece is not securely fixed, it could fly to cause personal injury. To avoid that, securely fix workpiece to work.

● **Do not bring your hand or a cloth close to moving part.**

Since the pneumatic tool is in imminent danger while in use, NEVER bring your hand or a cloth to the moving part of the pneumatic tool.

● **Do not bring the pneumatic tool into contact with electricity.**

Since the pneumatic tool is not designed to isolate from electrical contact, use it with careful attention paid not to bring it into contact with electricity.

● **Avoid sudden startup.**

To connect an air hose to the pneumatic tool, check to be sure that the START switch is set to OFF. In addition, to carry the pneumatic tool, do not put your hand on the START switch.

● **Pay utmost care to the direction of exhaust air.**

When the pneumatic tool is operated, oil mist is coming up. Furthermore, as the foreign particles etc., may be exhausted from inside air compressor or air piping, use the pneumatic tool with utmost care paid to the direction of exhaust air so that your eye or ear will not be directly exposed to it.



● **Do not work in an improper body posture.**

Use the pneumatic tool in a stable working posture by securely holding it to be ready to respond to unexpected movement.

● **Take a break as appropriate.**

Continuous work for an extended period of time could result in illness. To avoid that, take a break as appropriate. Furthermore, if you have an abnormal physical sensation such as pain, immediately stop using the pneumatic tool, and then get a physician diagnosis to follow his/her directions.

● **NEVER make any modification to the pneumatic tool.**

NEVER make any modification to the pneumatic tool. Doing so could result in accidents. In addition, never use the spare part other than the genuine one

● **Do not dismount parts.**

NEVER use the pneumatic tool with parts or screws dismounted from it. Doing so could result in accidents.

● **Immediately stop using the pneumatic tool if there is any abnormality on the tool.**

If there is any abnormality in the pneumatic tool, immediately stop using it, and then ask for check and repair.

● **If any hazard is predicted, stop air supply, and then disconnect the air hose from the pneumatic tool.**

When you do not use the pneumatic tool, or perform maintenance and replace the tip tool like grinding wheel, chisel, etc. or if any hazard is predicted, be sure to stop air supply, and then disconnect the air hose from the pneumatic tool. Besides, unless protective devices (couplers and etc.) which can shut down compressed air automatically are used, before removal of air hose, please be sure to first close a main cock and stop compressed air from coming in, and then open a valve on the tool side to discharge remaining air in the air hose.

 **WARNING** ■ **Maintenance, check, and repair**

- **Pay the adequate consideration to store the pneumatic tool.**

Unless the pneumatic tool is used, store it in the dry place beyond children's reach, giving it the enough maintenance.

- **Lubrication is important.**

As the result of lubrication, the premature wearing can be prevented and appearance of rust also can be restricted on the air motor part, gear and so on. Neglecting lubrication could produce rust or abrasion, thus resulting in not only malfunctions of the pneumatic tool but also accidents. To avoid that, put a few drops of Cosmo Rock Drill 46 for the models with pulse mechanism like TKa etc. or Cosmo Turbine 32 (Turbine oil ISO VG32) for other tools on the air motor part through the air inlet two or three times a day. For that purpose, it is recommended to install a lubricator with automatic drop function.

※Above remommended oil can be handled by us.

- **Be sure to perform check before use.**

Be sure to check the pneumatic tool for any unfastened screws and damaged parts. Not doing so may result in degradation in the performance and malfunctions of the pneumatic tool and further involve hazards.

- **Be sure to perform maintenance and check.**

For safe and effective work, do not neglect maintenance and check of the pneumatic tool.

- **Do not neglect maintenance of accessories.**

Please be sure to always check if there is any wear and breakage of an attachment, a socket stopper and a socket of tools, if required, do exchange or repair them. Especially do not use the tools which have much wobble on the bit inserting part because it can lead injury due to breakage.

● **For repair, ask us or our authorized (or designated) service factory.**

For repair of the pneumatic tool, ask us or our authorized (or designated) service factory through your YOKOTA dealer or distributor. Note that we are not responsible for any accidents or defects arising from customer's arbitrary actions or measures.

## エアグラインダを安全に使用していただくための警告・注意

本機は、といし等により、研削・研磨作業を目的とした手持ち用エアツールです。

■指定以外の用途、使用は重大な事故につながるおそれがあります。ご使用前に必ず本書をよくお読みになり、内容を十分にご理解の上、正しくご使用ください。

**⚠ 警告** ■切断砥石をご使用の場合は、切断砥石用ホイルカバー（オプション）をご使用ください。

**⚠ 警告** ■使用前の注意事項

●先端研削工具、最大径が50mm以上のエアグラインダには、といしカバーを取付けなければなりません。  
（労働安全衛生規則第117条）

●作業前1分間の試運転、先端研削工具取替え後3分間の試運転を安全な場所で行い、本機の作動に異常のないことを確認してください。  
（労働安全衛生規則第118条）

●規定寸法、規定周速度の先端研削工具が本機の仕様に適合して、取付けられていることを必ず確認してください。  
（労働安全衛生規則第119条）  
次項の、周速換算表を参照して、本機、といしカバーに表示されている回転数、周速に適合した先端研削工具を必ず装着してください。

●先端研削工具の側面使用は絶対にしないでください。但し、側面使用目的のものは除きます。  
（労働安全衛生規則第120条）

●使用空気圧力（無負荷時の配管動圧）は0.6MPa（6kgf/cm<sup>2</sup>）です。規定圧力以上で使用すると先端研削工具の最高使用周速を越えて危険です。必ず0.6MPa（6kgf/cm<sup>2</sup>）以下で使用してください。また本機使用箇所の近くには圧力計・減圧弁等を取付けてください。

研削といし周速度：回転数換算表										
といし径 (mm)	周速度 (m/min)									
	1800	2000	2400	2700	3000	3500	3800	4000	4300	4800
6	95,496	106,106	127,328	143,244	159,160	185,774	201,602	212,314	232,800	254,655
10	57,296	85,662	76,394	85,943	95,493	111,464	120,957	127,388	140,000	152,788
13	44,073	48,970	58,764	66,110	73,455	85,742	93,043	97,991	110,070	117,528
16	35,809	39,788	47,746	53,714	59,682	69,665	75,598	79,617	90,010	95,492
19	30,156	33,506	40,208	45,234	50,260	58,665	63,662	67,046	75,300	80,415
22	26,114	28,980	34,742	39,085	43,427	50,665	55,008	67,903	62,246	89,484
25	22,918	25,465	30,558	34,377	38,197	44,585	48,383	50,955	57,700	61,115
32	17,905	19,895	23,873	26,858	29,842	34,832	37,800	39,808	45,010	47,747
38	15,078	16,753	20,104	22,617	25,130	29,332	31,831	33,523	37,200	42,208
45	12,733	14,147	16,977	19,099	21,221	24,769	26,880	28,308	33,020	33,953
50	11,459	12,732	15,279	17,189	19,099	22,292	24,191	25,477	27,400	30,558
58	9,872	10,981	13,178	14,825	16,472	19,218	20,865	21,963	23,610	26,365
65	8,815	9,794	11,753	13,222	14,691	17,148	18,609	19,598	21,100	23,506
75	7,639	8,488	10,186	11,459	12,732	14,861	16,128	16,985	18,250	20,372
100	5,730	6,366	7,639	8,594	9,549	11,146	12,096	12,738	13,690	15,279
125	4,584	5,093	6,112	8,875	7,639	8,917	9,677	10,191	10,970	12,223
150	3,820	4,244	5,093	5,730	6,366	7,430	8,064	8,492	9,130	10,186
180	3,133	3,537	4,244	4,775	5,305	6,192	6,720	7,077	7,620	8,488
205	2,795	3,105	3,727	4,192	4,658	5,437	5,900	6,214	6,670	7,453
230	2,492	2,769	3,323	3,738	4,153	4,846	5,261	5,538	5,954	6,648
255	2,247	2,497	2,996	3,370	3,745	4,371	4,743	4,995	5,380	5,992
305	1,879	2,087	2,506	2,818	3,131	3,654	3,966	4,176	4,500	5,009

回転数 (rpm)

回転数 (rpm)

- 先端研削工具の目視検査、打音検査を行い、割れ、欠け、ヒビ、摩耗度、表示ラベルの破損や付いていないものなど、異常のないことを確認してください。少しでも異常のあるときには、絶対に使用しないでください。
- といしの取付けフランジ・ボルト・ナット等の固定金具は必ず備え付けのものを使用し、寸法の合わないといしを取付けるためにカラー・ブッシュ等を使用したり、固定金具を削る等の改造は絶対に行わないでください。
- といし軸のねじ部や固定金具の破損、摩耗等や部品不足がないか常に点検し、異常があれば直ちに使用を禁止してください。

- 高速での空廻し、急な発停の繰り返しは絶対に避けてください。
- 始動にあたっては必ず始動スイッチを徐々に開いてください。
- 濡れたり、水もしくは他の液体に浸っていた先端研削工具は絶対に使用しないでください。
- ご使用の前には必ず回転数のチェックを行い、異常があれば直ちに使用を禁止してください。回転数測定時は必ず先端研削工具を外した状態で行ってください。
- といしカバーは正しい位置に確実に装着し、取外した状態では絶対に使用しないでください。
- 破損、異常摩耗、その他の異常の認められる、といしカバーは絶対に使用しないでください。
- 平面研削には切断といしを絶対に使用しないでください。

## **⚠ 注意**

- 作業中は保護メガネ、手袋（但し、軍手などの編み手袋は除く）、防塵マスク、耳栓を使用してください。
- 騒音に関しては法令および各都道府県の条例で定める規制があります。周囲に迷惑をかけないように規制値以下で使用されることが必要です。必要に応じ遮音壁等を設けてください。

### **■使用時の注意事項**

## **⚠ 警告**

- といし破損により、といしの飛散を受けたといしカバーは絶対に使用しないでください。
- 作業中の回転している先端研削工具には絶対に手を触れないでください。

- 作業停止後もしばらくの間、先端研削工具は回転し続けますので、完全停止するまで絶対に手を触れないでください。
- 騒音が作業者の位置にて85dB (A) を越える場合は、必ず耳栓を使用してください。また85dB (A) 以下の場合についても、耳栓を使用されることをおすすめします。
- 衝撃を与える取扱いや、過度に押しつける使用は避けてください。
- 作業中の研削火花を直接手・足等に触れないようにしてください。
- 研削する材料により粉塵が多く発生する場合は、集塵機の設置等、作業者保護対策を実施してください。

**⚠ 注意** ●研削・研磨作業後の研削物は摩擦で熱くなっております。火傷に注意してください。

- 先端工具の取付け・取替え時の注意事項**
- ⚠ 警告** ●先端研削工具の取付け・取替えは、十分な資格のある熟達した人により行われ、点検・テストを行わなければなりません。
- 先端研削工具の取付け・取替えは必ずエアの供給を止め、エアホースを本機からはずし、付属の工具を使用して行ってください。
  - 先端研削工具が本機に確実に取付けられ、しん振れの無いことを、使用前に確認してください。

## ワイヤブラシ使用時

### ■使用前の注意事項

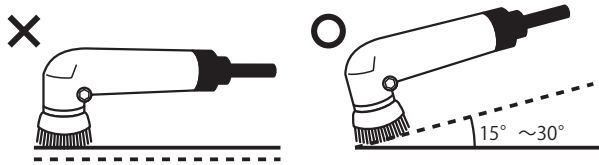
- ⚠ 警告**
- ワイヤブラシに錆・バランスの異常・折損・バラツキ等がないか注意して調べてください。異常があった場合は飛散や製品の破壊につながる危険性がありますので絶対に使用しないでください。
  - 本機の最高使用回転数を確認し、ワイヤブラシの最高使用回転数を超える場合は使用しないでください。本機の使用回転数の調整は弊社または弊社認定（指定）のサービス工場にご依頼ください。
  - 作業前にワイヤブラシを取付け、1分間の試運転を行い、本機の作動に異常な振動やしん振れなどがないことを確認してください。
  - 一度使用したワイヤブラシを再度使用する際には、ワイヤブラシ面に貯まった異質物を取除き、ワイヤブラシに異常がないか確認してから使用してください。
  - 特殊なブラシの使用については弊社または弊社認定（指定）のサービス工場に詳細をお問い合わせください。
  - ワイヤブラシは高熱・高湿度・酸・蒸気等によって品質低下を招き、思わぬ事故につながるおそれがありますので、このような条件下での保管には注意してください。

### ■使用時の注意事項

- ⚠ 警告**
- 作業中、軍手を使用するとワイヤブラシに手首ごと巻き込まれる危険がありますので、軍手等を用いての使用は絶対に行わないでください。革手袋を使用してください。
  - ワイヤブラシの取付けフランジ・ボルト・ナット等の固定金具は必ず備え付けのものを使用し、寸法の合わないワイヤブラシを取付けるためにカラー・ブッシュ等を使用したり、固定金具を削る等の改造は絶対に行わないでください。



- ワイヤブラシを使用する時は、常に正しい角度（15～30度）で操作するようにしてください。不適正な角度でワイヤブラシを使用すると折損等を引き起こし大変危険です。



- ワイヤブラシを使用する時に過度の圧力をかけないでください。過度の圧力をかけると寿命を短くするだけでなく損傷や折損を招き重大な事故の原因となります。
- 研磨面に凹凸がある場合またはエッジ部分を処理する場合、急激なブラシ抵抗が発生し、本機ごと跳ねとばされる危険性がありますので、常にブラシ抵抗に心がけてください。
- 被研磨物に対し最適なワイヤブラシをご使用ください。（最適なワイヤブラシの選択はブラシメーカーのカタログをご参照ください。）
- ワイヤブラシの先端は鋭利な形状になっていますので、素手でふれるとけがのおそれがあり非常に危険です。
- マグネット・マジック等に取り付けてのご使用は絶対に行わないでください。
- ブラッシング作業時、ワイヤはかなりの衝撃力とスピードを持って周囲に飛び散りますので、作業員や周囲にいる人が失明・負傷の危険性があります。ワイヤブラシ使用時には側面カバーのある保護メガネ・防塵マスク・からだ全体を保護する防具・革手袋・ヘルメットを必ず着用してください。ワイヤブラシ使用時には作業員以外10m以内は近づかないでください。

## ディスクペーパー使用時

### ■使用前の注意事項



**警告**

- 固定金具やサンディングパット等は、破損・摩耗や部品不足がないか常に点検し、異常があれば直ちに使用を禁止してください。
- サンディングパットは指定されたものを使用してください。
- ディスクペーパーの取付けフランジ・ボルト・ナット等の固定金具は必ず備え付けのものを使用し、寸法の合わないディスクペーパーを取付けるためにカラー・ブッシュ等を使用したり、固定金具を削る等の改造は絶対に行わないでください。
- といし軸のねじ部や固定金具の破損、摩耗等や部品不足がないか常に点検し、異常があれば直ちに使用を禁止してください。
- 先端研削工具の目視、検査、打音検査を行い、割れ、欠け、ヒビ、摩耗度等の異常のないことを確認してください。少しでも異常のあるときには絶対に使用しないでください。
- 濡れたり、水もしくは他の液体に浸っていた先端研削工具は絶対に使用しないでください。
- ご使用の前には必ず回転数のチェックを行い、異常があれば、直ちに使用を禁止してください。回転数測定時は必ず先端研削工具を取外した状態で行ってください。

- 高速での空廻し、急な発停の繰り返しは絶対に避けてください。
- 始動にあたっては必ず始動スイッチを徐々に開いてください。

## **⚠ 注意**

- 騒音に関しては法令および各都道府県の条例で定める規制があります。周囲に迷惑をかけないように規制値以下で使用されることが必要です。必要に応じ遮音壁等を設けてください。
- 作業中は保護メガネ、手袋（但し、軍手などの編み手袋は除く）、防塵マスク、耳栓を使用してください。

### **■使用時の注意事項**

## **⚠ 警告**

- 騒音が作業者の位置にて85dB（A）を越える場合は、必ず耳栓を使用してください。また85dB（A）以下の場合についても、耳栓を使用されることをおすすめします。
- 衝撃を与える取扱いや、過度に押しつける使用は避けてください。
- 作業中の研削火花を直接に手・足等に触れないでください。
- 研削する材料により粉塵が多く発生する場合は、集塵機の設置等・作業者保護対策を実施してください。
- 作業中の回転している先端研削工具には絶対に手を触れないでください。
- 作業停止後もしばらくの間、先端研削工具は回転し続けますので、完全停止するまで絶対に手を触れないでください。

## **⚠ 注意**

- プラスチック材（塗料を含む）をサンディング・ポリッシングする場合、静電気（放電・感電）が発生することがありますので注意してください。

●粘着式サンディングペーパー・マジック式サンディングペーパー等の使用時には、支え（駆動）パット上の所定の位置に必ず貼り付けてください。

●研削・研磨作業後の研削物は摩擦で熱くなっております。火傷に注意してください。

**⚠ 警告**

**■先端工具の取付け・取替え時の注意事項**

●先端工具の取付け、取替えは必ずエアの供給を止め、エアホースを本機からはずして付属の工具を使用して行ってください。

●先端研削工具が本機に確実に取り付られ、しん振れの無いことを、使用前に確認してください。


## **Warnings and cautions for safe use of pneumatic grinders**

The air grinders are hand-held abrasive tools for the use of grinding and polishing with grindstone and other attachment.

■ **Application and use other than specified in the safety rules in your country may cause a serious accident. Please read thoroughly the following instructions and fully understand them to use our tools correctly before the operation.**

 **WARNING** ■ **When using the cutting wheel, please use the wheel cover for cutting wheel. (option)**

■ **Cautions before use:**

 **WARNING** ● **A wheel cover must be installed on the air grinder when the grindstone to be used with, has maximum diameter of 50mm or more.**

● **Make sure the grinder works properly in a safe place through one minute trial run before daily use and three minutes trial run whenever grinding end attachment is exchanged.**

● **Confirm that the specified size of grindstone for the specified peripheral speed to meet the specification of the grinder, is installed on the tool. Refer to the conversion chart of the peripheral speed in the next page to install the proper grinding end attachment surely according to the specified number of rotation (rpm) and peripheral speed described on the grinder main body as well as on the wheel cover.**

● **Do not apply the side face of the grinding attachment (grindstone) , unless specially designed to do so.**

Conversion Chart of Grindstone peripheral speed and RPM										
Grindstone Diameter mm(in)	Peripheral speed (m/min)									
	1800	2000	2400	2700	3000	3500	3800	4000	4300	4800
6 (1/4)	95,496	106,106	127,328	143,244	159,160	185,774	201,602	212,314	232,800	254,655
10 (3/8)	57,296	85,662	76,394	85,943	95,493	111,464	120,957	127,388	140,000	152,788
13 (1/2)	44,073	48,970	58,764	66,110	73,455	85,742	93,043	97,991	110,070	117,528
16 (5/8)	35,809	39,788	47,746	53,714	59,682	69,665	75,598	79,617	90,010	95,492
19 (3/4)	30,156	33,506	40,208	45,234	50,260	58,665	63,662	67,046	75,300	80,415
22 (7/8)	26,114	28,980	34,742	39,085	43,427	50,665	55,008	67,903	62,246	89,484
25 (1)	22,918	25,465	30,558	34,377	38,197	44,585	48,383	50,955	57,700	61,115
32 (1 1/4)	17,905	19,895	23,873	26,858	29,842	34,832	37,800	39,808	45,010	47,747
38 (1 1/2)	15,078	16,753	20,104	22,617	25,130	29,332	31,831	33,523	37,200	42,208
45 (1 3/4)	12,733	14,147	16,977	19,099	21,221	24,769	26,880	28,308	33,020	33,953
50 (2)	11,459	12,732	15,279	17,189	19,099	22,292	24,191	25,477	27,400	30,558
58 (2 1/4)	9,872	10,981	13,178	14,825	16,472	19,218	20,865	21,963	23,610	26,365
65 (2 1/2)	8,815	9,794	11,753	13,222	14,691	17,148	18,609	19,598	21,100	23,506
75 (3)	7,639	8,488	10,186	11,459	12,732	14,861	16,128	16,985	18,250	20,372
100 (4)	5,730	6,366	7,639	8,594	9,549	11,146	12,096	12,738	13,690	15,279
125 (5)	4,584	5,093	6,112	8,875	7,639	8,917	9,677	10,191	10,970	12,223
150 (6)	3,820	4,244	5,093	5,730	6,366	7,430	8,064	8,492	9,130	10,186
180 (7)	3,133	3,537	4,244	4,775	5,305	6,192	6,720	7,077	7,620	8,488
205 (8)	2,795	3,105	3,727	4,192	4,658	5,437	5,900	6,214	6,670	7,453
230 (9)	2,492	2,769	3,323	3,738	4,153	4,846	5,261	5,538	5,954	6,648
255 (10)	2,247	2,497	2,996	3,370	3,745	4,371	4,743	4,995	5,380	5,992
305 (12)	1,879	2,087	2,506	2,818	3,131	3,654	3,966	4,176	4,500	5,009

r  
p  
m

rpm

- The designated applicable air pressure (the dynamic air pressure with the gauge of air piping at free speed) is 0.6MPa(6kgf/cm<sup>2</sup> or 85lb/in<sup>2</sup>). Do not apply excessive air pressure, as it exceeds the specified max. allowable peripheral speed, which is dangerous. Make sure to use the tool with the air pressure less than 0.6Mpa (6kgf/cm<sup>2</sup> or 85lb/in<sup>2</sup>). Furthermore, installation of pressure gauge and regulator near the operating grinder is duly recommended.
- Carry out visual inspection and sound check to find out any breakage, deficiency, cracks, wear-out level or breakage/lack of label with the grinding end attachment such as grindstone. Do not use any of such an abnormal grinding end attachment.

- To install grindstone, the proper fixtures such as flanges, bolts and nuts etc., which are originally equipped with the grinder must be used. Modification on the fixtures or the usage of collar-bushing etc., is prohibited to install grindstones which do not fit in size.
  - Always check the threaded part of the wheel shaft and fixtures with damage, wear-out etc., as well as missing parts. Forbid to use the grinder if abnormality is recognized.
  - Avoid free running at high speed and the repetition of rapid start and stop by all means.
  - Always open the start switch gradually for the start.
  - Never use the grindstone which was wet or soaked in water or other liquids.
  - Make sure to check the rotation number before use, and forbid to use it, if any abnormality is recognized. The checking must be done when the grinding end attachment is off the grinder.
  - Be sure to install the wheel cover in the proper position and never use the grinder with the wheel cover dismantled.
  - Never use the wheel cover where damage, abnormal wear-out, and other abnormalities are admitted.
  - Never use the cutting wheel for the surface grinding.
- ⚠ CAUTION**
- The protection glasses, gloves (however, knitting gloves such as cotton work gloves are excluded), a dustproof mask and earplugs should be used during the work.
  - Regarding to the noise level, national and /or local rule is to be complied. It is necessary to use the tool under the specified noise level in order not to cause the surroundings any trouble. Install the adequate interception wall and other sound-proof equipments, if necessary.

- ⚠ WARNING** ■ **Caution during operation**
- Never use the wheel cover where the grindstone broke and its fragments flew all over.
  - Never touch the grinding attachment such as grindstone in rotation.
  - Do not touch the grindstone until coming to complete stop, since it continues to rotate for a while even after the throttle is off.
  - Be sure to put a pair of ear plugs when the noise level exceeds 85dB(A) at the stand position of the operator. It is also recommendable to put ear plugs even for the level less than 85dB(A).
  - Avoid the handling by which the impact is given and over-loading operation by pressing the tool too hard.
  - Protect your hands and other part of body like feet from grinding sparks during the operation.
  - Operator's protection measure including the installation of dust suction equipment etc., is recommended, when too much dust is generated by grinding work, depending on the materials to grind.

- ⚠ CAUTION** ● The work piece during and after grinding operation, gets hot owing to the friction. Be careful not to be burned.

■ **Caution for installation and replacement of grinding attachment**

- ⚠ WARNING** ● The installation and exchange of the grinding attachments for the air grinder must be done by the qualified person. After that, inspection and test should also be done by the qualified person.
- Stop the supply of air and remove the air hose from the grinder without fail and use the tools attached as standard accessories before mounting or exchanging the grinding attachment.
  - Make sure that the grinding attachment is properly and securely mounted. Then, confirm before use that there is no center deflection.



## When using wire brush

### ■ Cautions before use



**WARNING**

- Confirm carefully if the wire brush has the rust, balance abnormality, breakage, inconsistency and so on. If any abnormality is admitted, do not use it. There is a danger of flying in pieces or breakage of the tool.
- Confirm the Max RPM of the tool and if it exceeds the Max usable RPM for wire brush, do not use the tool. Please ask for the speed adjustment of the tool to us or our authorized (designated) service factory.
- Before operation, install the wire brush and make a trial run of the tool for one minute, to confirm if there is no abnormal vibration, center deflection etc., in the tool's operation.
- When using again the same wire brush once used, confirm before use, if there is no abnormality of the wire brush, after removing the foreign particles attached on the surface of wire brush.
- For the use of special brush, please ask us or our authorized (designated) service factory in details.
- The wire brush has the quality degradation by the high temperature, high humidity, acids, vapor etc., which may cause the unexpected accidents. So, please be careful not to keep it under such conditions.

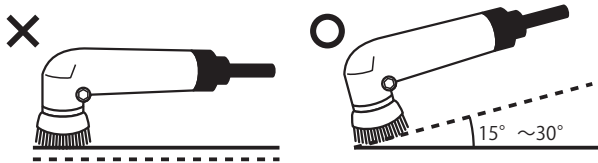
### ■ Caution during operation



**WARNING**

- Do not wear cotton work gloves or other knitting gloves during the operation, as it may cause serious danger of your wrist rolling into the wire brush. Please use leather gloves.
- To install the wire brush, the proper fixtures such as flanges, bolts and nuts etc., which are originally equipped with the tools must be used. Modification on the fixtures or the usage of collar-bushing etc., is prohibited to install the wire brush which does not fit in size.

- When using the wire brush, operate the tool always at correct angle (15~30 degrees). When using the wire brush at the improper angle, the breakage etc., will occur and it is quite dangerous.



- When using the wire brush, avoid the over-loading operation by pressing the tool too hard. Such an over-loading operation will become the reason not only for the short life but also for the serious accidents inviting injury or damage.
- When the grinding surface is uneven or edge section will be treated, there is such a risk that the body is thrown into the air together with the tool, owing to the generation of the sudden brush resistance. Always keep in mind the brush resistance.
- Use the proper wire brush against the brushing object. (Selection of the proper wire brush should be referred to the catalogues of brush makers.)
- Since the end of the wire brush is the sharp edge, it is quite dangerous to touch it by the bare hands.
- Do not use the wire brush attaching to the magnet, velcro etc. by any means.
- Since wire will fly around with substantial impact and speed during brushing operation, there is such a danger that the operator or the person around will be blinded or injured. When using the wire brush, wear the protective glasses with side shields, dustproof mask, protective clothing covering whole body, leather gloves and helmet without fail. Also stay away from the operator with distance more than 10M when using the wire brush.

## When using the disc paper



### WARNING

#### ■ Cautions before use

- Always inspect if the fixture or sanding pad etc., has the breakage, wear-out or missing parts. If any abnormality is admitted, prohibit the usage immediately.
- Use the designated sanding pad.
- To install disc paper, the proper fixtures such as flanges, bolts and nuts etc., which are originally equipped with the tools must be used. Modification on the fixtures or the usage of collar-bushing etc., is prohibited to install the disc paper which does not fit in size.
- Always check the threaded part of the wheel shaft and fixtures with damage, wear-out etc., as well as missing parts. Forbid to use the tool if abnormality is recognized.
- Carry out visual inspection and sound check to find out any breakage, deficiency, cracks, wear-out level with the grinding end attachment. Do not use any of such an abnormal grinding end attachment.
- Never use the grinding end attachment which was wet or soaked in water or other liquids.
- Make sure to check the rotation number before use, and forbid to use it, if any abnormality is recognized. The checking must be done when the grinding end attachment is off the grinder.

- Avoid free running at high speed and the repetition of rapid start and stop by all means.

- Always open the start switch gradually for the start.

 **CAUTION**

- Regarding to the noise level, national and /or local rule is to be complied. It is necessary to use the tool under the specified noise level in order not to cause the surroundings any trouble. Install the adequate interception wall and other sound-proof equipments, if necessary.

- The protection glasses, gloves (however, knitting gloves such as cotton work gloves are excluded), a dustproof mask and earplugs should be used during the work.

**■ Caution during operation**

 **WARNING**

- Be sure to put a pair of ear plugs when the noise level exceeds 85dB(A) at the stand position of the operator. It is also recommendable to put ear plugs even for the level less than 85dB(A).

- Avoid the handling by which the impact is given and over-loading operation by pressing the tool too hard.

- Protect your hands and other part of body like feet from grinding sparks during the operation.

- Operator's protection measure including the installation of dust suction equipment etc., is recommended, when too much dust is generated by grinding work, depending on the materials to grind.

- Never touch the grinding attachment in rotation.

- Do not touch the grinding attachment until coming to complete stop, since it continues to rotate for a while even after the throttle is off.

 **CAUTION**

- When sanding or polishing the plastic materials (including the painting), be careful since the static electricity (discharge, electric shock) may occur.

- When using adhesive type sanding paper, velcro type sanding paper etc., be sure to attach it on the designated position of the supporting (driving) pad.

- The work piece during and after grinding operation, gets hot owing to the friction. Be careful not to be burned.

■ **Caution for installation and replacement of grinding attachment**



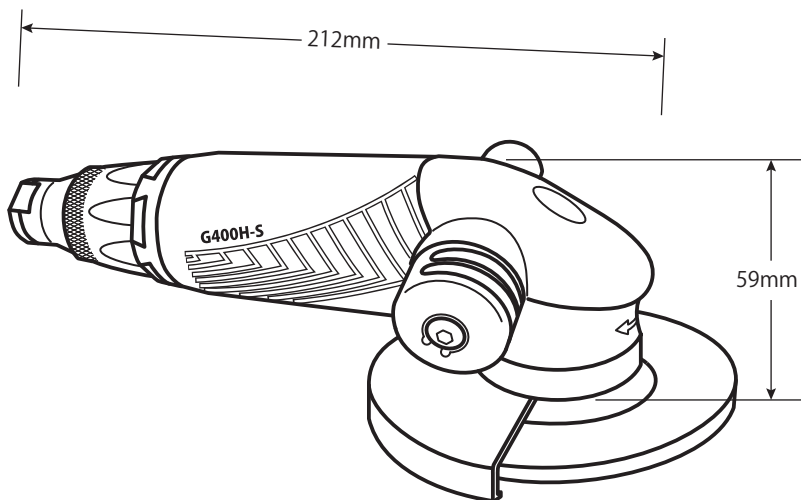
**WARNING**

- Stop the supply of air and remove the air hose from the grinder without fail and use the tools attached as standard accessories before mounting or exchanging the grinding attachment.

- Make sure that the grinding attachment is properly and securely mounted. Then, confirm before use that there is no center deflection.

# □G400H-S

## 外観図 External View



## 仕様 Specification

※空気圧力0.6MPaの時の仕様  
Specification at air pressure of 0.6MPa

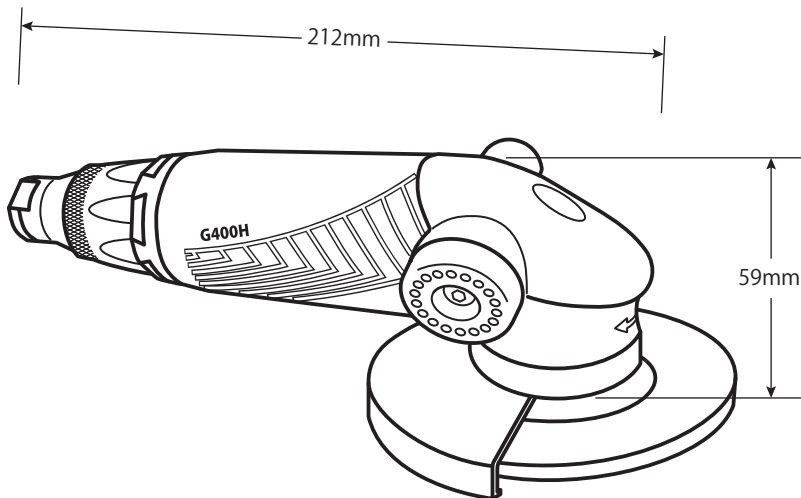
トイシ寸法 Capacity Wheel Size	105×6×15mm	放射音圧レベル(LpA) Sound Level - Pressure (LpA)	79.2dB(A)
回転速度 (無負荷) Free Speed (Approx.)	12500rpm	音響パワーレベル(LWA) Sound Level - Power (LWA)	—
空気消費量 (負荷) Load Air Consumption (Approx.)	7000 /min(A.N.R.)	質量 Weight (about)	1.3Kg
給気口 Air Inlet Thread (Pipe Thread)	Rc1/4	全長 Overall Length (about)	212mm
使用ホース寸法 Air Hose Size	φ9.5mm×5m	ヘッドの高さ Angle Height (about)	59mm
最高使用空気圧力 Max. Air Pressure	0.6MPa	振動値 Vibration	6.5m/s <sup>2</sup>

## 標準附属品 Standard Accessories

タッチジョイント(1/4)1個 Touch Joint (1/4): 1 piece	ヘキサゴンレンチ(H5)1個 Hex. Wrench (H5): 1 piece	アウトフランジ1個 Outer Flange: 1 piece	フランジストップスクリュー1個 Flange Stop Screw: 1 piece

# □G400H

## 外観図 External View



## 仕様 Specification

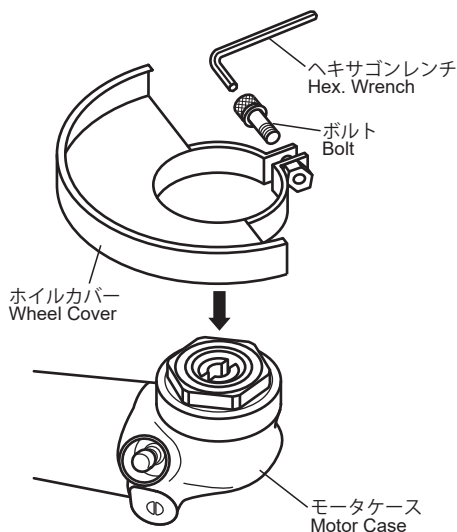
※空気圧力0.6MPaの時の仕様  
Specification at air pressure of 0.6MPa

トイシ寸法 Capacity Wheel Size	105×6×15mm	放射音圧レベル(LpA) Sound Level - Pressure (LpA)	85.6dB(A)
回転速度 (無負荷) Free Speed (Approx.)	12500rpm	音響パワーレベル(LWA) Sound Level - Power (LWA)	96.6dB(A)
空気消費量 (負荷) Load Air Consumption (Approx.)	7700 /min(A.N.R.)	質量 Weight (about)	1.3Kg
給気口 Air Inlet Thread (Pipe Thread)	Rc1/4	全長 Overall Length (about)	212mm
使用ホース寸法 Air Hose Size	φ9.5mm×5m	ヘッドの高さ Angle Height (about)	59mm
最高使用空気圧力 Max. Air Pressure	0.6MPa	振動値 Vibration	6.5m/s <sup>2</sup>

## 標準附属品 Standard Accessories

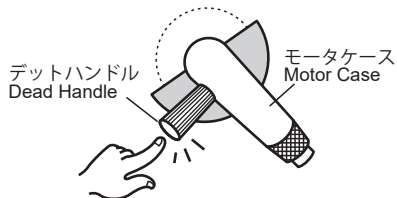
タッチジョイント(1/4)1個 Touch Joint (1/4): 1 piece	ヘキサゴンレンチ(H5)1個 Hex. Wrench (H5): 1 piece	アウトフランジ1個 Outer Flange: 1 piece	フランジストップスクリュー1個 Flange Stop Screw: 1 piece

## ホイールカバーの取付け方法 How to install the wheel cover



- ・ホイールカバーをモーターケースに挿入して、ヘキサゴンレンチでしっかりとボルトをしめつけてください。

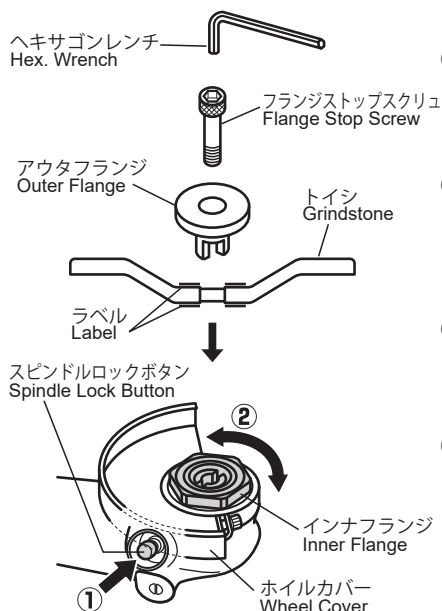
Install the wheel cover to the motor case and tighten the bolt firmly by the hexagon wrench.



- ⚠️ 自身を保護する向きに取り付けてください。特にデッドハンドルの下部は必ずホイールカバーでおおうようにしてください。

Install for the direction where to protect yourself. Make sure to cover the place, especially under the dead handle, by the wheel cover.

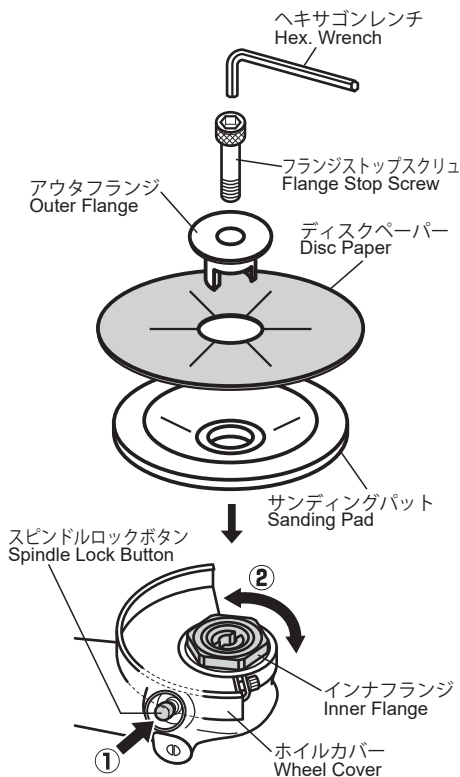
## トイシの取付け方法 (標準仕様) How to install the grindstone



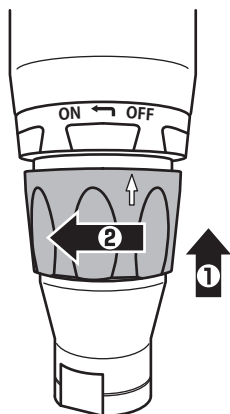
- ①スピンドルロックボタンを押してください。  
Pushing the spindle lock button.
- ②メインシャフトを左右にまわし、確実にロックした事を確認してください。  
Rotate the main shaft left and right. Then, confirm it is surely locked.
- ③インナフランジの上に砥石をのせアウトフランジ、フランジストップスクリューをセットしてください。  
Put the grindstone on the inner flange and set outer flange and flange stop screw.
- ④ヘキサゴンレンチでフランジストップスクリューをしっかりと締めつけてください。  
Tighten the flange stop screw firmly by the hexagon wrench.
- ⑤スピンドルロックが破損している場合、スパナH32 (オプション) をインナフランジに添えて、メインシャフトを支えてください。  
In case that the spindle lock is broken, hold the mainshaft, engaging the inner flange with the spanner 32 (option).



## ディスクペーパーの取付け方法 How to install disc paper



## スロットル操作方法 How to operate the throttle

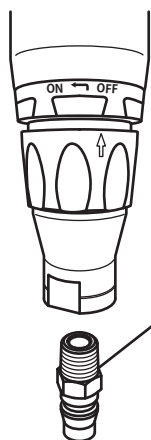


始動は、スロットルハンドルをモーターケース側（矢印①）に押し、左方向に（矢印② OFF→ON）に徐々に回してください。モーターケースの後に表示があります。

Start : Push the throttle handle into the motor case side (arrow①) and turn it to left direction (arrow② OFF→ON) gradually.

"OFF→ON" indication is engraved in the rear end of the motor case.

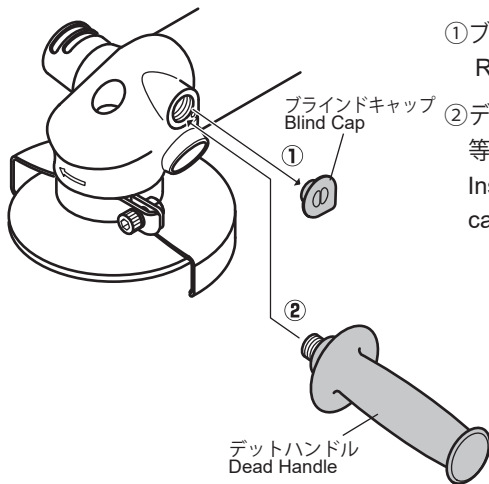
## タッチジョイントの取付け方法 How to install the touch joint



タッチジョイントの締付トルク  
Tightening torque of touch joint

Rc1/4 : $13 \pm 2 \text{N} \cdot \text{m}$
Rc3/8 : $24 \pm 4 \text{N} \cdot \text{m}$
Rc1/2 : $40 \pm 6 \text{N} \cdot \text{m}$

## デットハンドル（オプション）取付け方法 How to install the dead handle (option)



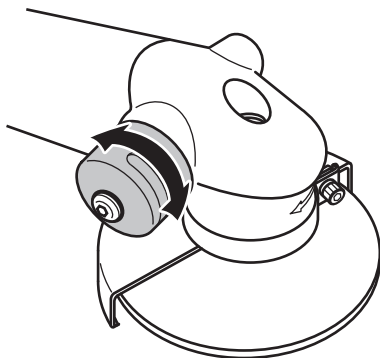
①ブラインドキャップを外してください。

Remove the blind cap.

②デットハンドルをモーターケースにスパナ等でしっかり固定してください。

Install the dead handle to the motor case firmly by the spanner and so on.

## サイレンサ仕様 ( G400H-S ) の排気方向 Exhaust direction of silencer for the silenced model (G400H-S)



サイレンサカバーを矢印の方向にまわして調整してください。

Turn the silencer cover to the arrow marked direction.

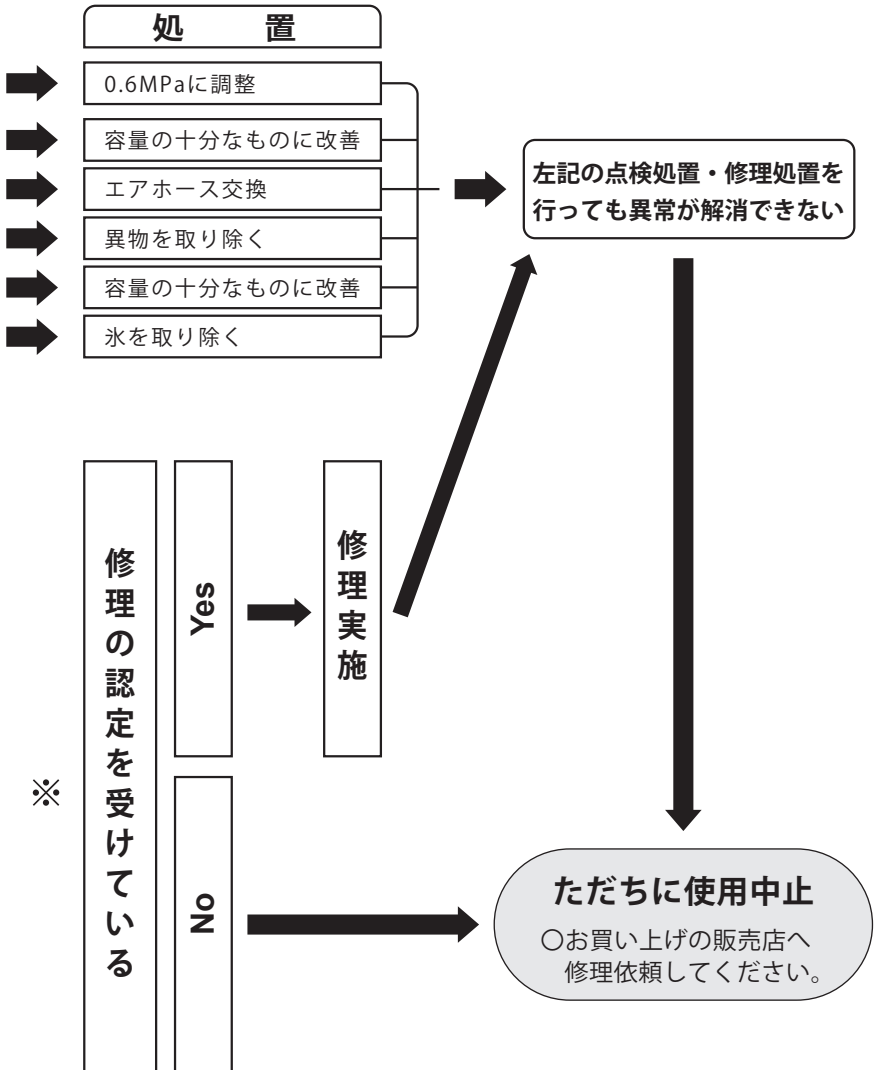
## 点検とその処置

日常点検／使用まえにはトイシを外して回転数のチェックをしてください。

### ●故障発生時の内容とその処置

故障の内容		考えられる原因
回転している	規定回転数より高い	空気圧が高い
	力が出ない	ホースおよび継ぎ手による圧力降下
		エアホースの内径が小さい
		異物混入による給気断面積減少
		コンプレッサーの容量不足
		排気穴の氷結
		ベインの摩耗
		アッパ・ロープレートの摩耗
		シリンダの摩耗
		ロータの摩耗
		ギヤの摩耗
	その他の回転異常	ギヤの摩耗
		ベアリングの摩耗
ベインの飛び出し不良		
回転していない	部品の破損	ベインの破損
		ギヤの破損
		ベアリングの破損
	その他	ごみ等の侵入
		ベインの膨張
		モータ部の焼付き
		ロータ部の錆付き
		スロットル部の作動不良

※



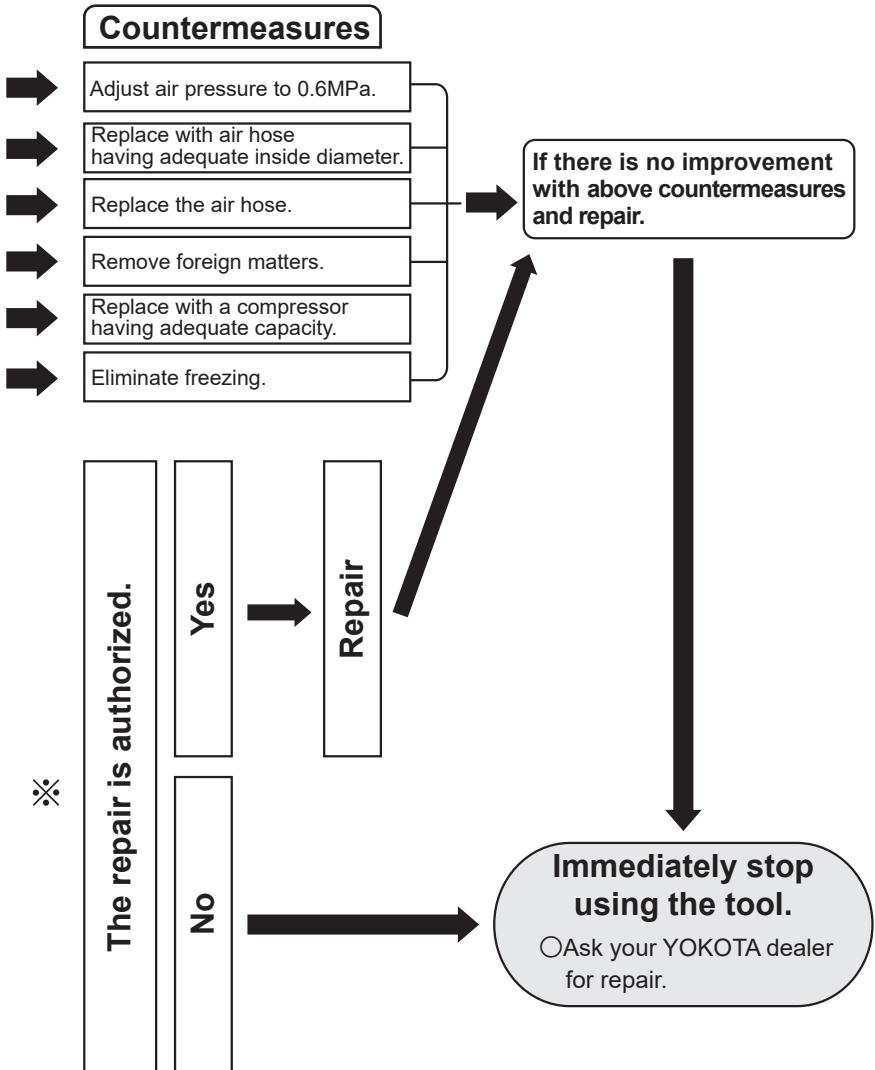
## Checks and countermeasures

Daily check: Before use, remove the grinding attachment like the grindstone etc., and check the free speed.

### ● Symptoms of troubles and countermeasures

Symptoms		Supposed causes	
The tool rotates.	The tool exceeds the specified revolutions.	➔	Too high air pressure
	The tool outputs no power.	➔	Pressure drop caused by hose or coupler
		➔	Too small inside diameter of air hose
		➔	Reduced area of the cross section of air inlet due to contamination with foreign matter
		➔	Insufficient capacity of compressor
		➔	Frozen exhaust hole
		➔	Worn vane
		➔	Worn upper or lower plate
		➔	Worn cylinder
		➔	Worn rotor
		➔	Worn gear
	Other abnormal rotation	➔	Worn gear
		➔	Worn bearing
		➔	Faulty protrusion of vane
	The tool does not rotate.	Damage of parts	➔
➔			Damaged gear
➔			Damaged bearing
Other symptoms		➔	Contamination with dust
		➔	Expanded vane
		➔	Seized motor part
		➔	Rusty rotor part
		➔	Malfunction of throttle
		➔	

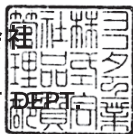




# 検査合格証

INSPECTION CERTIFICATE

ヨコタ工業株式会社  
品質管理部  
QUALITY MANAGEMENT



## ヨコタ工業株式会社 Yokota Industrial Co., Ltd.

本社・本部	〒578-0947 東大阪市西岩田3丁目5-55	TEL06-6788-1381	FAX06-6781-4519
仙台出張所	〒981-3103 宮城県仙台市泉区山の寺1丁目10-15	TEL0285-31-0002(小山)	FAX0285-29-0702(小山)
小山営業所	〒323-0819 栃木県小山市大字横倉新田312-5	TEL0285-31-0002	FAX0285-29-0702
東京営業所	〒143-0016 東京都大田区大森北3-4-3	TEL03-3762-6411	FAX03-3762-6413
名古屋営業所	〒468-0065 名古屋市天白区中砂町512	TEL052-832-4866	FAX052-834-6749
大阪営業所	〒550-0023 大阪市西区千代崎1-2-10	TEL06-6581-1721	FAX06-6581-1725
広島営業所	〒732-0804 広島市南区西蟹屋4-2-8	TEL082-263-1473	FAX082-262-3894
小倉営業所	〒803-0827 北九州市小倉北区緑ヶ丘2-12-36-105	TEL093-592-4812	FAX093-592-6682
海外部	〒578-0947 東大阪市西岩田3丁目5-55	TEL06-6788-1267	FAX06-6788-5953
Head Office & Headquarter:	5-55, Nishiiwata 3-chome, Higashi Osaka City, Osaka 578-0947, Japan TEL: +81-6-6788-1381 FAX: +81-6-6781-4519		
Sendai contact office:	10-15, Yamanotera 1-chome, Izumi-Ku Sendai City, Miyagi 981-3103, Japan TEL: +81-285-31-0002 FAX: +81-285-29-0702		
Oyama Office:	312-5, Oaza Yokokurashinden, Oyama City, Tochigi 323-0819, Japan TEL: +81-285-31-0002 FAX: +81-285-29-0702		
Tokyo Office:	3-4-3, Omorikita, Ota-ku, Tokyo 143-0016, Japan TEL: +81-3-3762-6411 FAX: +81-3-3762-6413		
Nagoya Office:	512, Nakasunacho, Tempaku-ku, Nagoya City, Aichi 468-0065, Japan TEL: +81-52-832-4866 FAX: +81-52-834-6749		
Osaka Office:	1-2-10, Chiyozaki, Nishi-ku, Osaka City, Osaka 550-0023, Japan TEL: +81-6-6581-1721 FAX: +81-6-6581-1725		
Hiroshima Office:	4-2-8, Nishikaniya, Minami-ku, Hiroshima City, Hiroshima 732-0804, Japan TEL: +81-82-263-1473 FAX: +81-82-262-3894		
Kokura Office:	2-12-36-105, Midorigaoka, Kokura-ku, Kitakyushu City, Fukuoka 803-0827, Japan TEL: +81-93-592-4812 FAX: +81-93-592-6682		
Overseas Division:	5-55, Nishiiwata 3-chome, Higashi Osaka City, Osaka 578-0947, Japan TEL: +81-6-6788-1267 FAX: +81-6-6788-5953		